

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和2年 3 月 19 日

事業所名 児童発達支援センターあさひ学園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		配置を変えるなど、活動に合わせて広く使えるようにしている	集会室など全園児や保護者も参加する行事になると狭い。引き続き配置や活動内容などでの工夫が必要
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○		段差や入口が狭いところ、床などの老朽化が見られる。場所が広範囲になり、短時間では整備できないことなどが課題となっている。現状の中で工夫しながら、どのように整えていくことができるか検討することが必要。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている		○	建物などの古さはあるが、清掃や必要に応じて修繕などを行うようにしている。	トイレやシャワー室後の着替えを行う場所などを、
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に2回行い、職員へ周知している。	意見に対しては、改善方法などの案などを職員間で出しながら、検討している。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		保護者からの事業所評価は文書で配布している。	自己評価は年度末に行っているのみ。年度の間で行うことで、より業務改善へ活かせるようにしていきたい。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後も第三者委員会の方に保護者からの評価などを伝え、意見をいただく機会を設けていく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			目的や意味の伝達が不足しているため、職員への確認しながら周知できるように努めていく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		アセスメントの方法については、検討している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	保護者と職員のそれぞれで園独自のアセスメントを行っている。	再アセスメント行う時期や、アセスメント内容については随時見直しを行っている。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			今後も見直ししながら、わかりやすい支援計画書が作成できるように、検討を行っていく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画書を日々の記録を記入する場所に入れておくことで誰でも確認ができるようにしている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		週案などクラス職員で話し合いながら検討するようにしている。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			同じ活動でも目的や、内容の違いが保護者にもわかりやすいように伝えていく事は課題になる。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○	指導案などを通して、支援する内容については知らせている。	行事等では行われているが、日々の中では丁寧に行えていないこともある。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	気づいたことを話すなど、共有しやすい環境がある。	日々の中では、意図的に機会を設けていないため、話したことを記録として残すことが少ない。記録にどのように残すかなども検討課題となる。
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			記録をとっているが、支援の検証や改善に活かされていない。	

20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
----	---------------------------------------	---	--	--	--

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			各市町村の保健師や福祉課などと連携を図っている。また、地域の子育て支援などについての情報も今後も収集し、情報提供できるように努める。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行先に園での様子などを見て頂いたり、引き継ぎ書などの作成を行っている。	情報共有など行っているが、伝わっていないこともあり、伝え方や内容を確認していく事が必要。また、移行先の状況や重視していることなどを知ることも課題だと感じた。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		学校の状況や仕組み、福祉との違いなどについて職員も周知できるように努めている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		市町村の巡回相談なども活用している。	今後も合同研修などを行いながら、情報交換を行い、支援の質の向上へつなげていきたいと思う。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		より交流が深まるように、交流園と協力しながら準備などを行っている。	交流保育を行う回数や内容については、今後も交流園と相談し、行っていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			子どもの状況を伝えることや、就学や併行通園などについては
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	○	日頃の連絡帳などで関わり方などを丁寧に伝えるようにしている。	ペアレントトレーニングとして、具体的に計画を立てて行っていない。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談内容などを他の職員と共有しながら、必要な支援が行えるようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			就労している保護者の参加の難しさや、活動内容など、役員の方と協力しながら引き続き工夫が必要だと感じる。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		必要に応じて、相談の時間をとるなど、園から積極的に働きかけている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		週に1回、月に1回、活動などについての手紙を配布している。	分かりやすく、読みやすい手紙づくりなどを今後も検討しながら、工夫することが必要だと感じる。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			想定外のこともある為、様々な状況を想定して取り扱う必要が今後もある。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		事前に職員間で伝達内容や方法の等の確認を行っている。	様々な意思疎通の方法などを学びながら、より個々に合わせた方法で行えるように検討していくことが必要だと感じる。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		ボランティアや夏祭りなどを通じて地域の人との交流が持てるようにしている。	交流の機会は少ないように感じる

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○	マニュアルはその都度見直したり、訓練などは実施している。	保護者への説明が不十分なものなど周知できていないものがある。保護者と訓練を行うなど周知する方法も検討課題となる。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			様々な状況での訓練が不十分に感じる。状況を想定しながら、必要な訓練を計画していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		アレルギー検査を行ってもらうことや、主治医に相談するように保護者をお願いしているが、医師の指示書という形ではなく、保護者の承諾の元に行っている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	作成回覧はできるようにしている。	記入する習慣が少ない。記入する内容についても周知できていないように感じる。再度確認しながら、リスクマネジメントの意識を高めていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		職員会議などで、処遇についての見直しや検討も行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			